



令和7年度 第3回「合同研究会」を開催しました！

- コミュニティを中心とした地域運営体制づくりに向けて、4つのモデル地区のコミュニティ（緑陽、渡内、富木島ふれあい、加木屋）の組織体制や活動の工夫等を共有し、課題解決の方策について考えることを目的に、今年度3回目の「合同研究会」を開催しました。
- 令和4年度に将来ビジョンづくり等から開始したモデル地区の取組の経過や主な活動を振り返り、各地区における成果や課題、展望、今後の合同研究会のあり方等について意見交換しました。

【日 時】令和8年2月27日（金）19時～20時30分
【会 場】東海市立市民活動センター 大会議室
【参加者】12名（緑陽3名、渡内3名、富木島ふれあい3名、加木屋3名）



モデル地区の4年間の取組の成果や今後の展望等が共有されました

- 2グループに分かれ、4年間でもっとも良かったこと（成果）や気になること（課題）等を共有しました

| テーマ | 主なご意見（◎：成果／■：ご意見・ご提案等） |
|-------------------------|---|
| 中学生や大学生など若者の活躍 | ◎事業の企画・準備段階から中学生と連携し、将来の担い手の人材発掘・育成を図った ◎大学生との連携が生まれ、それらがコミュニティ事業へと発展している ◎スポーツ少年団等の子育て世代の巻き込みにもつながった ◎子ども・若者をキーワードにした取組が進んだのはとても良い ■小中学生の早い時期からつながり、高校・大学へとつながりを継続していくことが大切 |
| 地域の変化に応じた活動の見直し | ■子ども会の休会、町内会・自治会のコミュニティからの脱退、人材不足、物価高騰等により従来型の活動の継続が難しくなっている。活動をコンパクトに見直していく等の必要がある |
| 多様な担い手とのつながり | ◎地域内外のNPOや事業所、農家と連携して新しい事業を実施できた ◎「スマイルかぎや」「日曜日のパパ」等住民組織が発足しコミュニティとの連携が進んだ ◎子ども食堂を通じて、「やりたいこと」から新しい人材が活躍し始めている ■自発的な個人・団体の掘り起こしが十分ではない ■シニア世代の「貢献寿命（社会や人とのつながりを維持し、役割を持つ）」を伸ばすことが大切 |
| 地域の活動拠点（コミュニティセンター）について | ◎子どもの居場所や遊び場として活用された ■柔軟な管理運営とともに、子どもたち等利用者へのマナー啓発等も必要 ■コミュニティセンターだけでは機能や空間が不足。小中学校や公園の活用等についても検討したい |
| コミュニティの事業・役割 | ■担い手の高齢化等で、町内会・自治会やコミュニティで地域について担うことの限界を感じた ◎組織や活動のあり方の見直しを進めることができた |

- 合同研究会について、参加者からは「ノウハウの共有」や「ネットワークづくり」ができたとの声がありました。今後は、参加者の拡大や事前のテーマ募集、時間の延長等の見直しを図りつつ、継続していくことを望む意見が多く聞かれました。

本取組に関するご質問等は下記までお問い合わせ下さい

連絡先：東海市総務部市民協働課

電話：052-613-7525
0562-38-6136

Email：chiiki@city.tokai.lg.jp